

IBA（国際建設博覧会）

ドイツには、IBA方式と呼ばれる“街づくりの手法”があります。ある地域で国際建設博覧会というイベントを開催し（開催は不定期）、それぞれの地域が抱えている“課題”を建築物によって解決していこうとするものです。それぞれの“解決策”は国際設計協議会で募集され、世界中から集まった設計プランの中から超一流の案が選ばれ、実際にそれを建設・展示します。このようにして造られた施設は従来の街並みに溶け込み、地元の人々に使われていくのです。ハンブルクでのIBAは2006～2013年にかけて開催されました。壁で水草を育てる建物・マイカーでなくマイポートを収納できる水上マンション・防空壕を改造したエネルギーシェルターなど、最新技術を駆使した建物は、博覧会終了後も世界中から注目を集めています。

エネルギーの丘 ゲオルクスバーダーハンブルク 太陽光と風車のサイト

廃棄物が捨てられていた丘をエネルギーの丘に変えるプロジェクトにより、太陽光と風車の丘に生まれ変わりました。ハンブルク・エネルギーが設備を導入しており、遊歩道や環境学習施設の整備を進めています。

グリーンピースエネルギー

グリーンピースのドイツ支部は1998年にグリーンピース・エネルギー社という電力会社を設立。その目的は、「ドイツは自然エネルギーによってエネルギー需要を100%満たすことも可能であるということ」を証明すること、さらに、固定価格買い取り制度がいかに重要であることを示すことでした。2000年に固定価格買い取り制度が導入され、送電網への自然エネルギーの優先的な導入が図られて、送電会社も自然エネルギーによって作られる電力の買い取りを義務付けられました。186名の利用者からのスタートでしたが、福島第一原発事故以降、利用者が急増し、現在は約11万人の顧客を持っています。

ハンブルク・エネルギー 公共電力会社

かつてハンブルク州はHEWという電力会社を保有し電気事業を営んでいましたが、スウェーデンの国営エネルギー会社ヴァッテンフォールにHEWを売却。しかし、2006年、市内にヴァッテンフォール社による大規模な石炭火力発電所建設計画が浮上したため、CO2大幅削減目標に逆行することから市民による反対運動が起こりました。そこで2009年に設立されたのがハンブルクエネルギー公共電力会社で、市内向けに自然エネルギー由来の電気を供給しています。顧客数は10万を超えており、域内での自然エネルギー設備の導入も推進中。



IBA（国際建設展覧会）のプロジェクトの一環として建設された施設

エネルギー製造工場とエネルギータンクに生まれ変わるトーチカ（砲台兼防空壕）

ハンブルクエネルギー（風力と太陽光発電の州政府公社）

通訳＆コーディネーターのスザンネ・エルファディングさん

《通訳・コーディネーター》スザンネ・エルファディング …フリーランスの翻訳者・通訳者。「ドイツ翻訳者・通訳者協会（BDÜ）」会員。街づくりと交通に関するリサーチャー、アドバイザーとしても活躍。2008年4月、早稲田大学にて博士号（工学）を取得。博士論文のテーマはドイツの都市計画と交通計画。

ツアー中も、ツアーの前後も、“学び”のための場が企画されています。
 4/18（金）世田谷区新電力研究会 シンポジウム「エネルギー革命最前線」 ※自由参加
 6/16（月）ロラン島にてシンポジウム「有機農業と再生可能エネルギー」
 8/22（金）農業者とエネルギー事業者によるシンポジウム ※自由参加